

早植いぐさ田の冬雑草に対する除草剤の単用処理技術

早植(11月植)いぐさ田の冬雑草に対して、除草剤ピラゾキシフェン・プレチラクロール・シメトリン粒剤の単用処理は、ピフェノックス粒剤 D B N粒剤の体系処理と同等の高い除草効果であり、除草剤の使用回数の削減による除草作業の省力化が可能である。

農業研究センターい業研究所栽培部(担当者:橋本 充)

研究のねらい

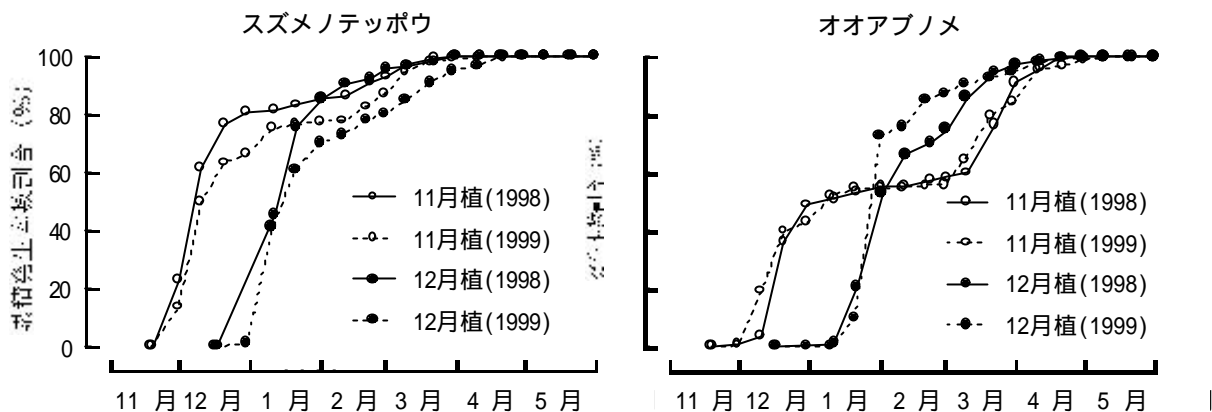
いぐさ栽培の省力化を進めるには農薬の使用回数の削減が望まれる。そこで、早植いぐさ田の冬雑草に対する数種除草剤の単用処理の防除効果を検討し、いぐさの省力生産技術を確立する。

研究の成果

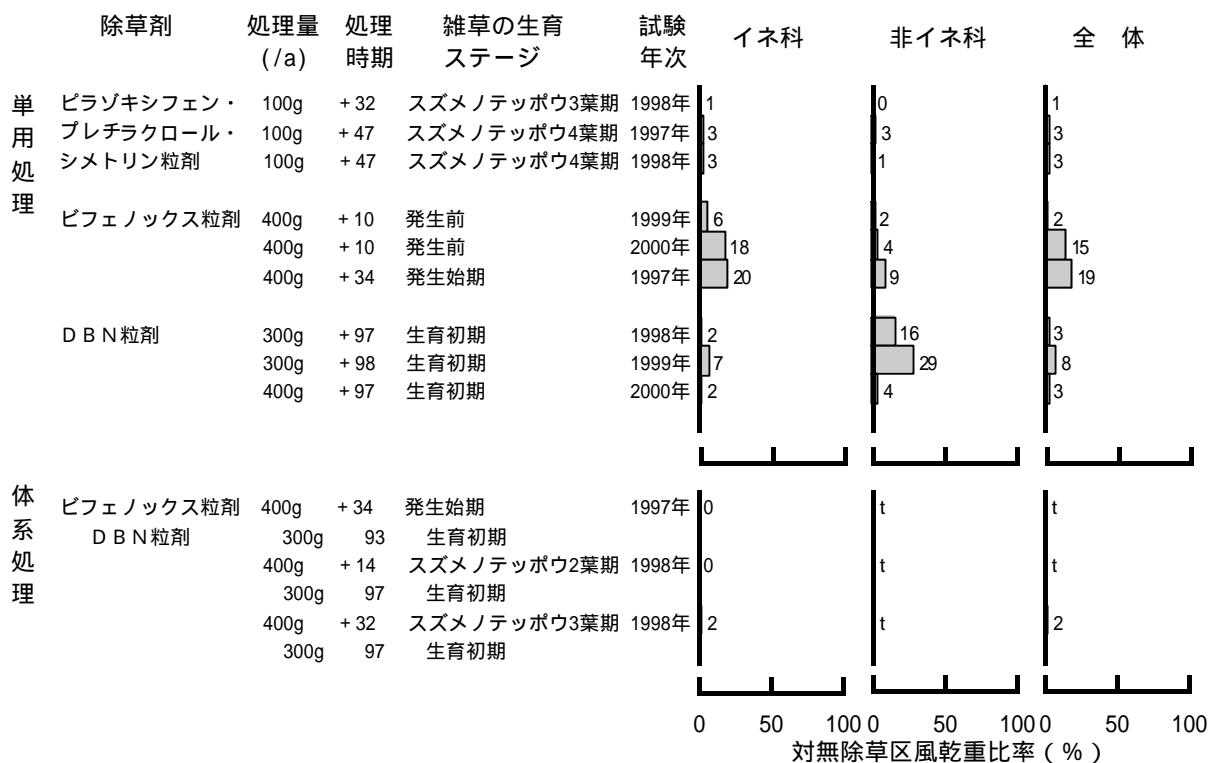
- 1 11月植のいぐさ田では、12月植のいぐさ田に比べて、冬雑草の発生が早く、その発生期間は長い(第1図)。
- 2 11月植いぐさ田の冬雑草に対する除草効果は、ピフェノックス(モーダウン)粒剤の単用処理ではスズメノテッポウ、D B N(カソロン)粒剤の単用処理ではオオアブノメなど非イネ科雑草に対して不十分である(第2図)。
- 3 ピラゾキシフェン・プレチラクロール・シメトリン(ワンオールS)粒剤の単用処理は、ピフェノックス粒剤とD B N粒剤の体系処理と同等の高い効果である。本剤を使用することで、冬雑草に対する除草剤の使用回数を1回に抑えることができる(第2図)。
- 4 ピラゾキシフェン・プレチラクロール・シメトリン粒剤は、いぐさの植付活着後からスズメノテッポウ3葉期まで使用できる。いぐさ田冬雑草対象の他の除草剤に比べて、使用適期の幅が広い(第2図)。

普及上の留意点

- 1 いぐさの生育後期に発生する夏雑草に対しては別に除草剤を処理する必要がある。
- 2 各除草剤の使用に当たっては県防除基準を遵守する。



第1図 いぐさ田における主要冬雑草（スズメノテッポウ及びオオアブノメ）の発生活消長の植付時期による違い（1998～1999年試験）。
1)いぐさ植付日：11月植 11月19～20日、12月植 12月17～18日。



第2図 早植いぐさ田の冬雑草に対する各除草剤の単用処理及び体系処理の除草効果（1997～2000年試験）。

- 1)いぐさ植付時期は11月19～21日である。
- 2) D B N 粒剤は2.5%製剤である。
- 3)処理時期はいぐさ植付後日数である。
- 4)調査は3月26日～4月8日に行った。
- 5)イネ科雑草は主にスズメノテッポウ、非イネ科雑草は主にオオアブノメである。
- 6)図中の「t」は trace を示し、四捨五入して1%未満である。